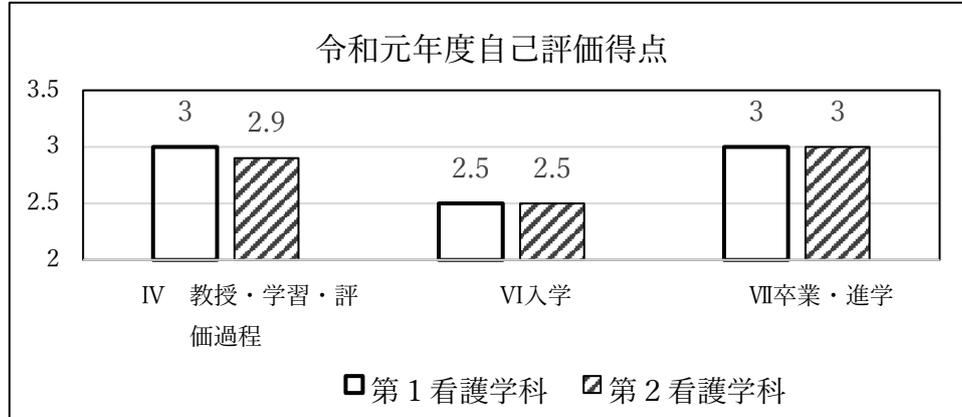


令和元年度自己点検・自己評価

令和元年度は看護教育の実際を反映しているⅣ 教授・学習・評価過程、Ⅵ入学、Ⅶ卒業・進学の3項目を取り上げて評価する。



3：当てはまる 2：やや当てはまる 1：当てはまらない

令和元年度取り組むべき課題と結果

課 題	結 果
1. 自己点検・自己評価に必要なデータをできるだけ数値化し、評価資料を作成する。	授業評価、実習評価、図書室利用者数、ホームページのアクセス数など数値化を実施した。
2. 教育力向上に繋がる研修への参加率を上げる。	学外での研修は平成30年度に比較して、参加人数が約2倍に増加した。平成30年度18件延べ19人から9件延べ42人となった。県内で、看護に関する学会があったこと、ICTに関する学校法人主催の研修があったことが要因と考える。
3. 教員が何らかの研究に自主的に参加できるような環境を作る。	第31回日本看護学校協議会学会（於：高松）にて、BLS研修に係るテーマで口演発表を2題行った。
4. 入学については入学生の質と量の確保のために応募者数を増やす。	第1看護学科は応募者が平成30年度より減少したが、定員以上の入学生を確保できた。推薦の応募者が7名減少したのが要因である。 第2看護学科は応募者が平成30年度より若干の増加となった。准看護学校からの推薦者増が応募者増につながったが、入学定員を上回る応募者の確保が困難な状況は改善していない。 オープンキャンパスの参加者は増加しているが、応募に結び付けられていない。今後の取り組みが必要である。

自己点検・自己評価の概要

令和元年度の評価得点は第2看護学科の「VI入学」が平成30年度より0.5ポイント上昇したが、他の項目は平成30年度と同じである。

第1看護学科

IV 教授・学習・評価過程

「シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。」は卒業時のアンケートから講義要綱の活用についての学生評価は3.3/4.0点と昨年度より0.3ポイント上昇し、授業概要は受講に役立ったと回答した学生が3.2点と0.1ポイント上昇した。2019年度の学校関係者評価をシラバスに反映できていないため、今後の課題とする。

VI 入学

応募者は横ばい状態であるが、高校からの推薦が減少傾向にある。高校訪問、進学相談会への参加回数は増やしているが応募者増につながっていない。更なる、努力が必要である。

VII 卒業・進学

看護師国家試験の合格率は昨年度と同じで97%になったが、全国平均94.7%を上回っている。卒業生の社会人基礎力の自己評価では「在学中、社会人基礎力が伸びたか」は「前に踏み出す力」は-0.4点、「考え抜く力」は-0.5点、「チームで働く力」は-0.2点、「倫理」は-0.4点と昨年度より低い評価となった。

第2看護学科

IV 教授・学習・評価過程

「授業内容間の重複や整合性・発展性などが明確になっている。」は授業内容のマトリックスを見直している状況で、評価が3から2へ低下した。「効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。」も「教員間の協力体制」を明文化できていないため、評価が3から2へ低下した。講義要綱の活用は3.9/4.0点と0.7点上昇した。今後とも、講義要綱の活用を進めていく。

VI 入学

応募者は横ばい状態であるが、令和元年度は微増であった。これからも、学校訪問を丁寧に実施する。

VII 卒業・進学

国家試験合格率は昨年度と同じ97%であった。また、香川県内への就職率は84%と高い水準を維持している。卒業生の社会人基礎力の自己評価では得点の上がった項目は5項目、得点の下がった項目は6項目であった。

令和2年取り組むべき課題

1. 広報活動の工夫

オープンキャンパスや学校案内に活用可能な動画などの資料作成
学生も巻き込んで広報資料を作る